



五中だより

令和 6 年 4 月 6 日
小平市立小平第五中学校
校長 伊藤 克行
小平市小川町 1 - 7 9 8

新年度を迎えて

校長 伊藤 克行

令和 6 年度を迎えました。今年度から小平第五中学校は令和 7 年度の学校運営連絡協議会（コミュニティスクール、以下 CS と表記）の本格実施にむけ、スタートします。CS とは「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」作りの一つの方法です。

たとえば、本校 PTA は令和 4 年度から 2 年間かけてその在り方を見直してきました。この見直しの背景の一つに、家庭環境の変化があります。共働き家庭が多くなり平日、休日に多くの保護者が PTA 活動を行うことが難しくなっていました。様々な PTA 活動には意味があり、あった方がよいことはわかっていますが、毎年のように PTA 役員選出に苦勞している現状がありました。コロナ禍、学校生活制限下で休止していた活動をこのタイミングで見直し、本当に必要な活動について学校と保護者の間で話し合いを重ねてきました。PTA を任意参加にしたり、PTA 会費徴収も今年度より廃止したり、PTA で加入していた損害賠償保険も取りやめることにしました。学校がボランティアを必要とする行事などの際には、日程に都合がつく保護者の方を募集し、お手伝いいただく都度登録のサポーター制度にしました。

教職員の家庭環境も変化しています。保護者の皆様と同様、共働き家庭が多くなり、育児への男性参加も当たり前になりました。年齢が進めば介護の問題も出てきます。産休・育休代替制度は進んでいるものの教員不足のため、なかなか代わりの教員が見付かりません。部活動の地域移行なども話題になっていますが、小平市ではまだ実現には至っていません。にもかかわらず、土日に大会引率できる教員の数も減ってきています。異動で指導できる教員が転出してしまうと次に指導できる教員が来るとはいえない状況です。地域人材の部活動サポートが進めば、教職員の異動に関係なく良い指導を継続していくことが可能となります。我々学校の側から見ても、地域人材のサポートは大きな支えとなります。

しかしながら、このようなサポーター制度も当然とりまとめ役が必要です。別の視点で見ると地域には、保護者以外にも「学校に関わりたい。」「生徒のために何か役立つ活動がしたい。」と思っている方がいるはずです。五中校区には大学も多く存在しています。地域の大学生の力も生かしたいと考えています。学校が必要とするボランティア活動を保護者だけに限定せず、CS を通じて、地域人材を取り込み、機能させることができれば、と考えています。

今回は CS で取り組みたい一つのテーマを紹介しましたが、他にも学校について地域に理解を求め、地域と協力して生徒を育てられるような小平第五中学校にしていきたいと思います。CS のその他活動についても今年度少しずつできることから始めていきます。

さて話は変わりますが、年度始めに、保護者の皆様に生徒との関わりについてお伝えしたいことがあります。

中学生という年齢は肉体的にも、精神的にも大きく成長する時期です。その成長にともない、大人の足りないところも見えるようになり、周りの大人を批判したり、反抗したりするようになる年齢です。とはいえ、まだまだ自分自身は子どもの部分があり、他の人や自分自身を傷つけてしまったり、悪いことをしてしまったり、たくさんの失敗をしてしまうのも中学生です。小学生の頃は大人に怒られるからやらないでいたことが、中学生では大人の目を離れ、自分のやってみたいという気持ちだけで行動し、失敗してしまうことになるわけです。しかし、失敗しなければわからないこと、失敗から学べることは

とても大きいです。さらにこの失敗がその人を魅力的にしたり、とてもやさしい人間にしたりするから不思議なものです。

だからこそ、学校やご家庭が子どもの失敗したことに、どんなふうに向き合い、どのような対応をするかが、とても重要です。例えば SNS で友人を傷つけてしまったとき、他の友人の悪いことだけを教師に話して、自分のしたことには都合よく、うそをついていたりすることがよくあります。子どもは保護者の方に一番、悪く思われたくないですから、保護者の方にこそ本当のことが言えないこともよくあります。このよううそをついている状態で被害をうけた生徒に謝罪をすると絶対にうまくいきません。被害を受けた生徒やご家庭が納得いかないのはもちろんですが、うそをついた生徒自身も実はたくさんのものを失います。間違ったことを学習してしまうからです。自分が一番間違えたことを正直に話ができると、話をした本人が一番すっきりした気持ちになります。こうなるには間違えたことを反省している子どもを認め、その正直さを評価することができる大人がそばにすることがとても重要だと思っています。何か問題が起きてしまったとき、ご自分のお子様を信じることはもちろん大切なことです、その信じる気持ちがお子様にうそをつかせてしまうことがあることも理解しておく必要があります。私たち教師も生徒を疑うのではなく、よく状況を見て丁寧に一人一人に向き合いたいと考えています。

ご家庭でも、学校で何かが起きた時、学校から連絡があった時、冷静に状況をとらえ、学校と一緒にお子様の成長につながる指導をお願いできるとありがたいです。中学時代にたくさんの経験をして、たとえ失敗しても支えてくれる大人の存在を理解してもらえような関係を保護者の皆様と学校で築いていきたいと考えています。

私たち教職員は一人一人の生徒のことを考え、指導に当たりますが、学校の指導が不十分な場合や至らないことがある場合はどうぞ遠慮なく学校までお知らせください。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



写真は花ボランティアの皆様が整備してくださっている校門付近の花壇です。

【お知らせ】

・PTA より寄贈品のご紹介

PTA より会費徴収廃止に伴い、これまでの積立金で行事用テント 8 張、老朽化が進んでいた体育館舞台幕（一文字幕、見切幕、霞幕）を新調し、寄贈していただきました。生徒たちのために大切に使用させていただきます。

・学習者用端末副教材について

昨年度より学習者用端末（クロームブック）に家庭学習用副教材として「ラインズ e ライブラリー」というドリル教材を導入しております。このソフトは小学校 1 年から中学校 3 年生まで全教科を網羅しています。今年度は各学年の保護者会で教材会社から直接保護者の皆様に紹介をさせていただく予定です。

・部活動について

指導可能な教職員の人数・異動状況を考慮し、今年度は剣道部・女子ソフトテニス部の 1 年生募集を中止します。なお、2・3 年生の入部は継続します。また、新規に硬式テニス部で女子の募集を開始します。